

# そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

## 特別展「手塚治虫展」開催中！

17歳のデビューから60歳でこの世を去るまでの43年間、第一線の作家として活躍し続けた手塚治虫（1928－89年）。『マンガの神様』と称される手塚の生み出した多様な作品や魅力的なキャラクターたちは、現在も日本はもとより世界中の人々から愛され続けています。こどもから大人までを対象とした幅広いジャンルの作品には、手塚が生涯問い続けた人間や生命の尊さに関わる深いテーマやメッセージが込められています。

本展では、手塚の生涯と業績を、手塚が生み出したキャラクターや作品などから紹介し



「鉄腕アトム」 ©手塚プロダクション

ます。また、公害を経験した四日市市で、手塚が未来へ託したメッセージを読み解きます。

手塚が手掛けたマンガの原稿、映像・資料・愛用の品々など、貴重な資料をご覧くださいことができます。ぜひ、ご来場ください。

### 特別展 手塚治虫展

時 11月24日(休)まで  
所 4階 特別展示室  
料 一般 1,000円  
高校・大学生 600円  
中学生以下 無料

# 文化財さんぽ

固 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

## 足利将軍の家臣 矢田<sup>けん もつ</sup>監物が<sup>のこ</sup>遺したもの

戦国時代、12代将軍・足利義晴<sup>よしはる</sup>（1511～1550年）に仕えていた矢田監物<sup>けん もつ</sup>は、丹波国<sup>たんばのくに</sup>（現在の京都府と兵庫県の一部）から小山田の地に移り住み、山田城を築きました。子孫は代々「監物」を名乗ったと伝えられることから、監物が誉れ高き人物としてこの地に根差していたことが推測されます。後に監物は主君義晴の菩提を弔うため、今は無き万松寺を建立したとされています。

天正18（1590）年、「小田原の陣」で監物は北条氏との戦いで戦死しましたが、家臣の子孫により墓碑<sup>あんしやうじ</sup>が安性寺（山田町）に建て



矢田監物の墓碑と十一面観音菩薩立像（山田町）

られました。

この寺には、かつて万松寺の本尊であったといわれる「十一面観音菩薩立像<sup>じゅういちめんくわんのんぼざつりやうざう</sup>」が安置されています。また、監物の所有と考えられる「槍銘<sup>やりめい</sup> 備州<sup>びしゅう</sup> 長船法光<sup>おさふねのりみつ</sup> 長享二年\*八月日<sup>ちやうきやう</sup>」も継承され、像と槍はともに市指定有形文化財に指定されています（※1488年）。

小山田の地には監物に縁あるものが伝わり、山田城跡には堀や土塁が現存しています。戦国の舞台に思いを馳せながら周辺を散策してみてもいいでしょう。